



(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	やさしい日本語で一緒に考える・創る・変わる ～那覇市多文化共生推進ネットワーク構築 2021～
2 事業実施期間	令和3年 7月 ～ 令和4年 2月
3 事業目的	<p>【事業を行うことにより解決された課題】</p> <p>本事業を行うことにより、気軽に交流・相談できるコミュニティ・ネットワークの希薄さによる外国人市民への情報伝達・共有の格差の課題を解決したい。本事業は、前年度の事業で浮かび上がった課題の中から、以下、2つの課題解決を事業目的として活動を開始した。</p> <p><u>①少ない・届かない・伝わらない情報</u></p> <p><u>②気軽に交流・相談できるコミュニティ・ネットワークの欠如</u></p> <p>外国人市民も含む多様な市民一人ひとりの声を聴き、信頼できる関係性と顔の見えるネットワークを緊急時だけでなく、平時からの構築を目指した。</p> <p>しかし、本事業において上記課題の解決とまでは至っていない。だが、①と②の課題解決を目指し事業を進める過程で、多くの市民が「外国人」市民の声や体験、思いを知らないという課題の解決に繋がる活動ができたと考える。</p> <p>異なる背景を持つ多様な参加者が公平な立場・環境において顔を見合わせ、互いの声・思いを聴き合い、知り合うことができた。「外国人」「日本人」問わず、より豊かな暮らしを実現するため、一人ひとりが言葉で伝え合える場づくり、コミュニケーションづくりが参加者と一緒に実践できたことは、上記の課題解決に繋がる第一歩である。</p>

<p>4 公益性</p>	<p>【市民や地域への社会貢献度について】</p> <p>今回の事業で関わった方々は「外国人」「日本人」市民、企業、行政、関連団体等多様であった。その多様な参加者と共に事業を行った中での社会貢献は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かからの一方通行なコミュニケーションではなく、参加者一人ひとりが公平な立場で、みんなの相互作用でのコミュニケーションの場、対話の場が築けた。 ・「中学生の制服、どうやって洗ってる？」（fu ふ！チャットやりとりから）というような生活の中で抱えるちょっとした疑問を尋ねあえるやさしい関係性を創ることができる。 ・「外国人」で困っているだろうから助けるという視点・姿勢ではない。「なにじん」か関係なく、自分と異なる他者と公平な立場でコミュニケーションを図る。そこで情報共有・交換や相談を重ねることで顔の見える関係性を構築し、互いにエンパワメントしている。 ・「外国人」「日本人」関わらず、普段から声があげられない、沈黙を強いられている「弱者」の声を聴き合える関係性や機会は、参加者の居場所やセーフティーネットとしての機能を有する。 ・「外国人」も「日本人」もコロナ禍で深刻化する孤立・孤独支援の対策としても期待できる。
--------------	--

<p>5 事業内容 *具体的に記入してください。</p>	<p>【事業 1：多文化共生ネットワークミーティング・グローバル  市民会議】</p> <p><多文化共生ネットワークミーティング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年10月9日(土)10時～12時 ・2022年2月19日(土)10時～12時 <p>①実施場所 オンライン会議 ZOOM を利用し実施</p> <p>②対象者 関心のある市民</p> <p>③内容 コロナ禍における状況や課題について、「情報伝達」をテーマにグループで意見交換、全体共有をした。コロナ禍で感じるストレス、普段感じていること等を共有する時間になった。 市役所外国人相談担当課からは、どう「情報」が届いているのか現状を聞き、意見やアドバイスを求めたことに対して、来沖して間もないころに、事故にまきこまれて相談者のあてもなく、ひとりで苦労した経験や来沖してすぐに相談窓口の情報があると助かるので空港で案内を配布したらどうか、という声があがった。</p> <p>④参加者 25名 市民活動、企業、自治体職員、入管職員、個人、市議</p> <p>⑤参加者の声の感想（事後アンケートより抜粋） 印象に残っていること（10月開催の参加者感想より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モヤモヤなどの表現を伝えること、使い方の難しさ ・様々な団体・個人が参加することで、多様な情報が共有できる有意義な場でした。 ・空港で緊急事態の対応情報を受け取れるのはいいですね。紙媒体じゃない方がいいと思います。 ・外国人本人の言葉で「日本語能力が十分ではないために、自身の権利を主張できない。十分に納得できないまま、物事が処理される。」と、訴えていた様子が印象に残っています。 <p><グローバル  市民会議></p> <p>①実施場所 若狭公民館より YOUTUBE 配信</p>
----------------------------------	--

②対象者

関心のある方

③内容

教育、生活相談、市民活動等をテーマにグローバル市民（外国人、日本人）が出会い、意見交換をする場として、若狭公民館の協力を得ながら、開催した。

スピーカーとして、那覇市議会 3 名、那覇市社会福祉協議会、自治会、ネパール、韓国、アルゼンチン、メキシコ出身のグローバル市民が、「朝ご飯何食べた？」のアイスブレーキングから始まり、教育サポートの情報共有を求める声、相談窓口の広報や内容の充実を求める声を聞き、那覇市として取り組んでいることを共有しながら、よりよいサービスのあり方について意見交換を行った。後半は、市民活動として献血啓発グループの活動、コミュニティーでのワークショップ活動への思いが共有された。あのようなざっくばらんに「人」として対等に出会い、意見交換する場や機会を今後もつくっていくことで、言葉の壁、心の壁が小さくなり、ひいては共に制度の壁をなくすことにもつながるのではないかと、今後の可能性に期待したい。

この会議の後、献血啓発について市役所内で話題になった時に、この会議で意見共有した R さんの名前があがったり、市議が教育委員会にヒアリングに行くなど、動きがうまれたことは、実施した成果と言える。地域の「人」的ネットワークが有機的につながっていくことで、多文化共生社会におけるサービスや情報伝達のあり方をも共につくっていけるのではないかと考察する。

YOUTUBE 参加した県内、県外の方々からも貴重な感想が届いた。声を出していくことで、地域内、そして地域を超えての共感が生まれたことに感謝したい。

【事業2：fuふ！パラソルチャット】

① 実施場所

オンライン会議アプリ Zoom を利用し実施した。12月24日のみ対面で実施。

②対象者

A) 「外国人」「日本人」誰でも参加可能

実施日とテーマ：

1. 8月28日(土) 「ストレス&リラックス」、
2. 10月23日(土) 「私がよく見る youtube・SNS・テレビ」
3. 12月25日(土) 「クリスマスの思い出」

B) 「外国人」「日本人」ママパパ

実施日とテーマ

1. 9月25日(土) 「里帰り出産」
2. 11月27日(土) 「子育てで大事にしたいこと」
3. 令和4年1月22日(土)
「世界と沖縄を比べてみたら？学校編」
4. 2月26日(土) 「子どものしつけ・接し方」

③内容

前年度、同事業で実施した外国人市民を対象にしたコロナ禍における生活状況・情報収集等に関するアンケート調査を行った。調査結果からコロナ前より続く課題の1つ、気軽に交流・相談できるコミュニティ・ネットワークの欠如を解決する一歩としての事業である。

参加者の体験・思いを共有し語り合え、ゆるく繋がる会を開いた。毎回1つのテーマを決め、参加者間での活発なやりとりが起こる環境を整えることを心掛けた。声をあげにくく孤立しがちで似たような境遇をもつ参加者が互いに信頼関係を創り、楽しいかつほっとする時間を築けるコミュニティーを目指した。

会の流れは、アイスブレイクで参加者間の自己紹介、メインテーマに関するデモンストレーション・説明を行う。その後、参加人数に応じてグループに分け、テーマを軸に双方向のやりとり。そして、グループでの話題を全体で共有した。

ママパパの回は、お子さんがいらっしゃる方も気軽に参加してもらおうと「途中参加・退室OK」「途中で抜けたり、時々音声だけ聴いての参加も大丈夫です」と案内した。

【事業3：ニュースレター「fuふ！パラソルレター」発行】

当初は、紙媒体を人から人へ配布、伝達していくネットワーク的な発行を考えていたが、コロナ禍での対面、人との接触ができない中で、企画思案はしたものの、発行までは至っていない。課題に思うのは、「ニュースレター」で誰に何を何のため

	<p>に何をどう伝えるのかをクリアーにし、計画をしてきたい。発行するまでの準備、情報収集段階であった。今後発行できるようにしたい。</p>
<p>6 実現性・感染症対策</p>	<p>【緊急事態宣言等の発令時における活動の取り組み】 オンライン会議 zoom に切り替え、オンライン開催が事業の主となった。また、グローバル市民会議では、スピーカーの方々やスタッフのみが対面で行い、youtube で配信した。</p> <p>【コロナウイルス感染症対策】 主にオンラインでのイベント開催であった。対面での開催時、マスク着用、検温、健康状態の確認、手指消毒、部屋の換気を行った。</p>

7波及効果・今後の展開

【事業1：ネットワークミーティング、
グローバル市民会議】
ミーティング、会議の実施を通して、学んだこと

「わたしは、困っています！ちょっと手伝ってもらえる？！」
と言えるかどうか。。顔の見える関係性とは、どんな関係性だろうか。本事業は、あらためて考える機会となった。企画内容がクリアーにできず困った。イベント開催前日にして運営スタッフが足りないことがわかった。そんな時、これまで私は、ひとりで不安になりながらも、私が頑張っ解決できるんだ、解決しなければいけないという思考で、誰かの力を借りることは申し訳ないという気持ちさえ持っていた。今回は、そういう余裕がなかったため、プライドをおいて、相談した。若狭公民館の宮城館長と新垣さんが一緒に悩み、考えてくれたことで、安心できた。またグローバル市民会議前日に運営スタッフとして人員が足りないことが明らかになった時、「突然だけど手伝ってほしい」と視聴者として参加予定だった知人に相談したら、3人（中国、ブラジル、アルゼンチン出身者）が快く引き受け、会場準備や運営を担当してくれた。何とも心強く、共に事業をつくっている仲間であることを教えてもらった。本事業を通してみえてきたことのひとつとして、顔の見える関係性からのもう一步、「困ったら素直にお願いします」ことで、本当の顔が見えてくることを知った。多文化共生社会への一步として、お互い、本当の顔でコミュニケーションをとり、助け合っているのではないかと、ということに気がついた。「多文化共生」を目指す私たちこそ、誰かに相談すること、力を借りることの大切さを大切にしていきたい。小さなシンプルなことだが、この気づきを今後の団体のあり方、関係性の作り方、そしてワークショップや会議等の実施の際も、お互いに支援し合える関係性をつくっていききたいと考える。

「わたしはずっと言いたかった！」と、声高に話すネパール出身のOさんのこの一言がとても印象に残った。そして気がついたこと、言いたいことがあるのは、Oさんだけではなく、私たちはみんなだ。みんな自分の考えや想いをもち生きているのだから、言いたいことがあるはずだが、言わない文化を持っているということだ。そんな空気を読み、周りとの調和を大切にする日本、沖縄文化の中で「言いたいことがある！」と堂々と発信するOさんの姿に共感し賛同するのは、私たちの気持ちを代弁しているからではないかと考えた。対等に思ったこと、考えたこと、もっている意見を共有できる社会にするためには、外国人支援ではなく、私たちが私たちの考えをもち、対等に話し合っていくことで、多文化共生の地域市民になっていけるのではないかと考えた。多文化共生は外国人のためではなく、地域に住む私たちみんなが生きやすい社会をつくっていくことだと

認識した。

本事業で学んだことをいかし、世界のウチナーンチュ大会、復帰 50 周年、那覇市 100 周年の節目の活動としても、fu ふ! と思える多文化共生のヒントを見つけていきたい。

【事業 2 : fu ふ! パラソルチャット】

関わったスタッフの感想として「会を通して、色々気づきがある。今まで普通に思えることが違っていたり、普通じゃないことが普通だったりする気づきの場になり得る場所だなあ~と思った」「自然にアドバイスし合う」ことができたり、「あの人に聴いたらわかるかも」という緩い関係性が小さくとも芽生えたことは、見えにくくとも効果の 1 つとして挙げたい。

また、その場では持ち合わせていなかった情報を会が終わった数日後「〇〇さんにこの情報を伝えてもらえますか?」と参加者からメールが来ていた。会で発せられた参加者 1 人の問いを気につけ、言動が続いたことは、その後もつながるネットワークとして動いたことに喜びを覚えた。

加えて、今後も他事業との繋がり、当事業以外で日頃の仕事でのネットワークや関係性、スタッフ個々の人との繋がりがなくしては、成り立たないことを痛感した。

今後の展開としては、当団体だけではなく、他団体とのコラボレーションで企画・運営する案が挙げられた。更に、今回は決まった担当者で内容や流れもある程度、決まったものであった。しかし、担当者や内容・方法が変わっても、「fu ふ! チャット」として、異なる他者と対話の場をデザインできるのではと考える。

しかし、その対話の場の継続には、開催者側も参加者側も無理なく実施・参加を続けられるよう一人ひとりの声を聴き合い、トライ&エラーを繰り返すことが考えられる。

継続することで、参加者の体験を集めた人的リソース、情報リソースの構築・蓄積・共有が図られ、参加者の一人ひとりの立場・興味関心・得意分野から関わられるような関係性・体制が理想である。

8 その他の反省点など	<p>【fuふ！チャット開催頻度・参加者数の増減】</p> <p>1ヶ月1回の開催であったが、対象者別で会を分けたため、参加者にとっては2か月に1回となった。参加者にとっては頻度も少なく感じ、回によって参加者数に波があった。</p> <p>また、「気軽に交流・相談できるコミュニティ・ネットワークの欠如」を解消するための実践の継続は予想以上に困難であった。事業の期間を踏まえ、見通しを立て、限られた時間・人員・予算の中から解決できる課題の設定ができなかったことは反省したい。</p>																											
9 スケジュール (なるべく詳細に記入してください。予定でかまいません)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容(場所・参加対象・人数など)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8月</td> <td>fuふ！パラソルチャット・zoom・12名</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・11名</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>多文化共生ネットワークミーティング①(オンライン)</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>fuふ！パラソルチャット・zoom・8名</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>グローバルパラソル市民会議</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・6名</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>中間報告書作成・提出</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>fuふ！パラソルチャット・3名</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・12名</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>多文化共生ネットワークミーティング②(オンライン)</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・4名</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>事業終了報告書提出</td> </tr> </tbody> </table>	時期	内容(場所・参加対象・人数など)	8月	fuふ！パラソルチャット・zoom・12名	9月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・11名	10月	多文化共生ネットワークミーティング①(オンライン)	10月	fuふ！パラソルチャット・zoom・8名	11月	グローバルパラソル市民会議	11月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・6名	11月	中間報告書作成・提出	12月	fuふ！パラソルチャット・3名	1月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・12名	2月	多文化共生ネットワークミーティング②(オンライン)	2月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・4名	2月	事業終了報告書提出	
時期	内容(場所・参加対象・人数など)																											
8月	fuふ！パラソルチャット・zoom・12名																											
9月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・11名																											
10月	多文化共生ネットワークミーティング①(オンライン)																											
10月	fuふ！パラソルチャット・zoom・8名																											
11月	グローバルパラソル市民会議																											
11月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・6名																											
11月	中間報告書作成・提出																											
12月	fuふ！パラソルチャット・3名																											
1月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・12名																											
2月	多文化共生ネットワークミーティング②(オンライン)																											
2月	fuふ！パラソルチャット(ママパパ)・zoom・4名																											
2月	事業終了報告書提出																											
<p>10 事業実施に関して協働(連携)した行政機関・他団体の有無。該当する箇所に☑等を記入してください。)、協働の内容について記入してください。</p> <p>行政との協働(☑企画に協力 □資金提供 ☑告知などの協力 □その他())</p> <p>他団体との協働(□企画に協力 □資金提供 ☑告知などの協力 □その他())</p> <p>□ 無し</p> <p>協働の内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆協働の仕方、イベントへの参加、課題解決の方法を共に考える 那覇市まちづくり協働推進課、那覇市市民生活安全課、 那覇市国際交流市民の会、那覇市保健所、若狭公民館 福岡出入国管理局那覇支局、総務省沖縄事務所行政相談窓口</p> </div>																												